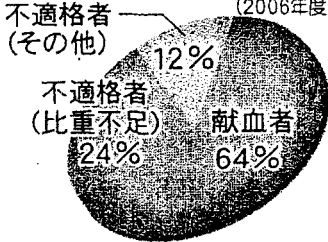


# 献血ルームで栄養相談

■兵庫県内の女性献血状況  
(2006年度)



## 貧血で「不適格」の女性急増受け

同センターによると、二一九人の上った。県内で二〇〇六年度に受け付けた献血希望者は、延べ二十四万二千五百七十四人だったが、そのうち四万九千五百七十七人(20%)が事前検査で不適格となった。不適格の理由では、血液の比重鉄分不足が二万七千二百

## 全国初、あすから神戸で

ダイエットによる貧血などで献血に「不適格」とされる女性が急増しているを受けて、兵庫県赤十字血液センターと同県栄養士会とが協力し、管理栄養士による献血希望者のための栄養相談をJR三ノ宮駅前のミント神戸15献血ルームで五日から始める。女性の健康改善とともに、輸血用血液不足の解消を目指すという、両者のこうした連携は全国で初めて。(今泉欣也)

同センターによると、二一九人の上った。県内で二〇〇六年度に受け付けた献血希望者は、延べ二十四万二千五百七十四人だったが、そのうち四万九千五百七十七人(20%)が事前検査で不適格となった。不適格の理由では、血液の比重鉄分不足が二万七千二百

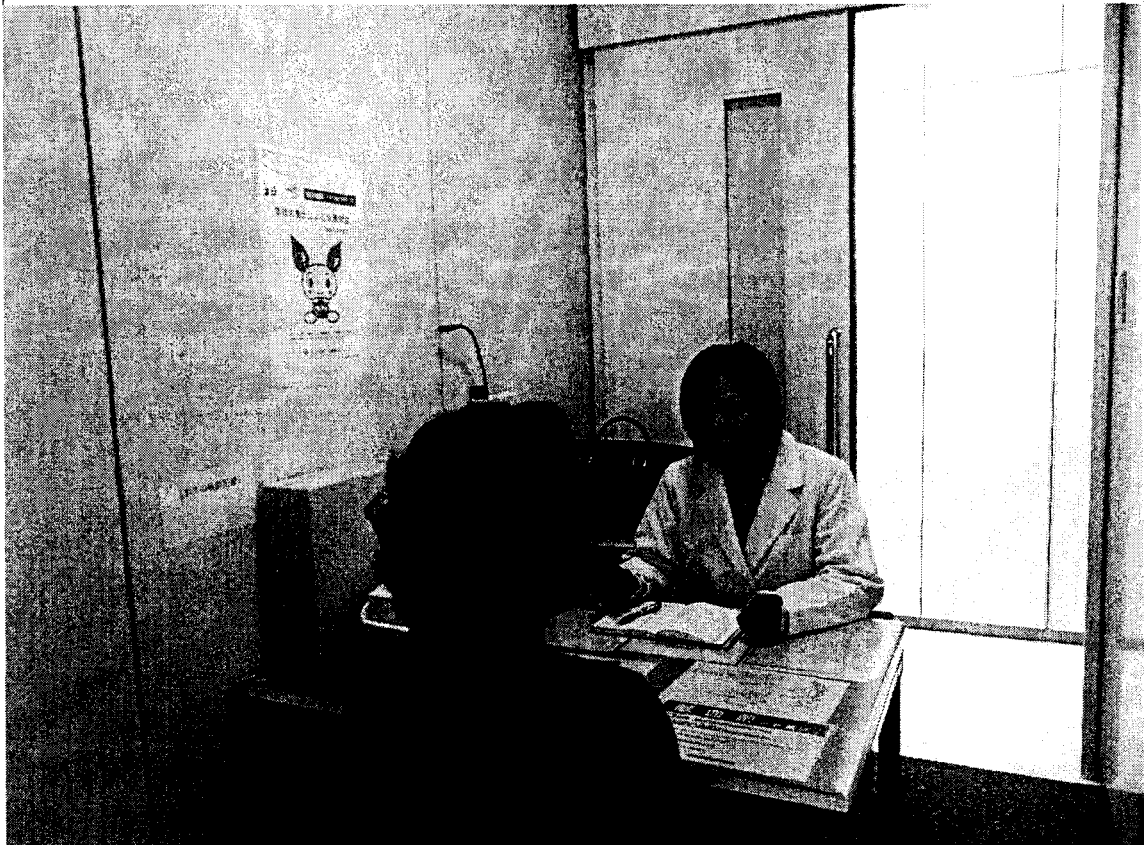
「ダイエット志向の高まりや出産後の体形維持などによって貧血気味の女性が増えていると指摘する。同センターの藤田嘉秀部長は「兵庫県は現在、約一千人の輸血用血液を他府県に依存しているが、比重不足が改善されれば、自給できると期待する。また、栄養相談は、毎週月曜日の午後二時―四時半(祝日と年末年始を除く)に受け付け、希望制で無料。相談時間は一人五―十五分程度の手定。

同センターの藤田嘉秀部長は「兵庫県は現在、約一千人の輸血用血液を他府県に依存しているが、比重不足が改善されれば、自給できると期待する。また、栄養相談は、毎週月曜日の午後二時―四時半(祝日と年末年始を除く)に受け付け、希望制で無料。相談時間は一人五―十五分程度の手定。

同センターの藤田嘉秀部長は「兵庫県は現在、約一千人の輸血用血液を他府県に依存しているが、比重不足が改善されれば、自給できると期待する。また、栄養相談は、毎週月曜日の午後二時―四時半(祝日と年末年始を除く)に受け付け、希望制で無料。相談時間は一人五―十五分程度の手定。

同センターの藤田嘉秀部長は「兵庫県は現在、約一千人の輸血用血液を他府県に依存しているが、比重不足が改善されれば、自給できると期待する。また、栄養相談は、毎週月曜日の午後二時―四時半(祝日と年末年始を除く)に受け付け、希望制で無料。相談時間は一人五―十五分程度の手定。

同センターの藤田嘉秀部長は「兵庫県は現在、約一千人の輸血用血液を他府県に依存しているが、比重不足が改善されれば、自給できると期待する。また、栄養相談は、毎週月曜日の午後二時―四時半(祝日と年末年始を除く)に受け付け、希望制で無料。相談時間は一人五―十五分程度の手定。



## その他広報活動 献血協賛企業活動推進のための事例

### 【事例 9】

実施センター名 : 日本赤十字社 血液事業本部

実施名称 : 献血サポーターWEB サイト

対 象 : 献血団体・献血推進団体

実施日時(期間) : 平成20年2月1日(金)より

実施目的 : これまでの、申込書による「献血サポーター」への参加登録方法の他に、インターネットからの参加登録機能を構築することにより、利便性の向上と手続きに係る時間短縮を図り、更なる「献血サポーター」への参加企業・団体の増加を目指す。

実施内容 : 「献血サポーター」に参加いただける企業・団体がインターネットから登録の申込みができる。  
登録完了後は、「献血サポーター」ロゴマークを専用サイトからダウンロードして使用することが可能となり、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRすることができる。  
また、全国都道府県別にロゴマークを取得した献血サポーター活動参加企業が紹介できる。

今後の取り組み : 当WEBサイト上で、参加団体の紹介を増やしていく。

ホームページ : <https://www.ken-sapo.jp/>



## 【事例 10】

実施企業名 : 株式会社マルハン

実施名称 : 株式会社マルハン創業 50 周年献血活動

対 象 : 全従業員及びお客様

実施日時(期間) : 平成19年6月1日～平成20年3月31日

実施目的 : 社会に対する感謝の気持ちを伝えるために、全従業員参加の献血活動を行う。

実施内容 : 全国の店舗の全従業員が、献血バス、献血ルーム等で献血の協力をする。  
献血サポーターとして参加し、ロゴマークを使用したポスター(下図)の作製を行い、全店舗への掲示とともに、自社 WEB ページやCMで献血活動を紹介。

実施結果 : 全国 227 店舗の従業員及びその家族の方々約 2,000 名の協力をいただいた。



**マルハンは全従業員で献血に協力します。**

現在、全国的に献血量が減少しています。  
人間の生命に欠くことのできない血液は人工的に作り出すことができません。  
さらに、血液は長い期間にわたって保存することもできないのです。  
献血に必要な献血をいつでも十分に確保する為には、絶えず誰かの献血が  
必要になります。  
マルハンは今年50周年を迎えるにあたりまして、社会に対する「感謝」の  
気持ちを伝えるために、私たちにできることを考えました。  
それが全従業員10,000人参加の「献血活動」です。



<http://www.maruhan.co.jp/>



その他広報活動  
複数回献血クラブ会員募集のための事例

【事例 11】

- 実施センター名 : 日本赤十字社 血液事業本部
- 実施名称 : 携帯電話やパソコンによる献血履歴及び検査成績の照会
- 対象 : 複数回献血クラブ会員
- 実施日時(期間) : 平成20年4月15日(火)から
- 実施目的 : 献血にご協力いただいた複数回献血クラブ(以下「クラブ」という。)会員へ、現在、献血手帳及び献血カードで確認できる献血の履歴や、ハガキによりお知らせしている検査成績(生化学検査、血球計数検査)について、携帯電話やパソコンで照会できる機能をクラブシステムに追加することにより、利便性の向上を図り、更なる同会員の増加並びに複数回献血への協力を推し進める。
- 実施内容 : クラブ会員は、携帯電話及びパソコンのクラブシステム会員専用ホームページからログインし、「献血記録」を選択すると、「献血履歴」と「検査成績」を表示する。表示項目は次のとおり。

(1) 献血履歴

血液型、献血回数、献血日、  
採血センター名、献血種類

日本赤十字社 複数回献血クラブ モバイルサイト	
――	
献血記録	
――	
血液型: O+型 献血回数: 21回	
1回前	H19.04.10 東京 400mL
2回前	H19.02.01 東京 200mL
3回前	H18.12.25

(2) 検査成績

- ア. 献血時の情報(血圧、脈拍)  
イ. 生化学検査(7項目)  
ウ. 血球計数検査(8項目)

検査成績は、過去5回分を比較できるようグラフで表示。また、献血後にその献血履歴及び検査成績がホームページに表示されたことのお知らせメールをクラブ会員へ送付する。

[携帯電話画面]

日本赤十字社 複数回献血クラブ モバイルサイト	
――	
献血記録	
――	
検査結果のグラフ (最新5回分)	
※グラフの色 標準値範囲内: 青 下限値以下: 橙 上限値以上: ピンク	
● ALT (GPT)	
標準値: 5~45	
H19.04.10	36
H19.02.01	50
H18.12.25	40
H18.11.01	20
H17.08.01	30
● AST (GOT)	
標準値: 11~37	
H19.04.10	29
H19.02.01	35
H18.12.25	38
H18.11.01	30
H17.08.01	25
● γ-GTP	
標準値: 10~65	
H19.04.10	101
H19.02.01	90
H18.12.25	65
H18.11.01	50
H17.08.01	40
● 総蛋白	

## 【事例 12】

実施センター名 : 日本赤十字社 血液事業本部

実施名称 : 「ありがとう、献血。」WEB映像配信  
～ 病気やけがで輸血を受けた患者さんやその家族の声 ～

対象 : 一般の方、献血者

実施日時(期間) : 平成20年4月1日(火)より

実施目的 : 病気やけがで輸血を受けた患者さんやその家族の体験談について、その声を映像でご覧いただき、医療における輸血の重要性を理解し、献血への感謝の気持ちを感じるにより、献血へ更なる関心を持っていただき、献血における意欲向上を目指す。

実施内容 : 献血運動推進全国大会での体験談発表について、複数回献血クラブシステムのホームページに掲載した。  
平成20年4月の運用開始時は、第41回和歌山大会の岡本さん、第43回福井大会の宮川さん、安永さんの3名の発表を見ることができる。  
パソコン上からホームページの各発表者をクリックすると、映像や音声のファイルを再生するためのソフトウェアが起動し映像が流れる。また、携帯電話用のホームページでもダイジェスト版を見ることができる。

ホームページ : <https://www.kenketsu.jp/>

The screenshot shows the website interface for the Japanese Red Cross Society's 'Thank you, Blood Donation' video player. The header includes the Japanese Red Cross Society logo and name, and navigation links for 'HOME' and 'Site Map'. A 'Member Login' button is also visible. The main content area features a video player with the title 'ありがとう、献血。' (Thank you, Blood Donation). Below the title, there is a list of featured speakers from the National Blood Donation Promotion Conference, including Mr. Okamoto (41st Wakayama Conference), Mr. Miyakawa (43rd Fukui Conference), and Ms. Yanagi (43rd Conference). The interface includes a 'Play' button and a 'PAGE TOP' link. The footer contains copyright information for the Japanese Red Cross Society.

## 各血液センターで実施した若年層献血確保対策

(平成19年度)

センター名	対策	内容
北海道	1. ティーンズドナー献血キャンペーンの実施 2. 学生サマー献血キャンペーンの実施 3. 献血推進ポスターコンクールの実施	1. 全道全域でラジオ番組と連携し、10代の献血参加を呼びかけるイベントを実施した。 2. 学生主体のサマーキャンペーンを実施した。 3. 献血推進のポスターコンクールを実施した。
青森	1. ハガキ依頼 2. セミナー開催 3. はたちの献血キャンペーン	1. メールと封書による依頼の実施。 2. 大学の学生課を通して参加を募る。 3. 成人式会場において記念品引換券配布した。
岩手	1. 高校生に対する普及啓発 2. 県マスコットキャラクターを活用した普及啓発	1. 県内の全高校3年生に対し県製作の献血普及啓発クリアファイルを配付した。 2. 告知用ポスター・チラシ等各種広報物にマスコットキャラクターを使用街頭献血でマスコット着ぐるみによる広報活動を行った。
宮城	1. 大学・専門学校（仙台市内）における学内献血推進強化 2. はがきによる献血のお礼状送付 3. はがきによる献血依頼	1. 4月に4大学で学内献血キャンペーン実施し、11月～3月は仙台市内献血ルームの近隣専門学校や大学述べ65校を訪問し、ルームへの来場促進を強化。 2. 10代、20代の初回者への礼状を送付。 3. はがきによる献血依頼を行った。
秋田	1. 講演会（またはセミナー）の開催 2. はがきによる献血依頼 3. 献血キャンペーンの実施 4. 高校生に対する感謝状の贈呈（卒業時）	1. 3回講演会を実施。 2. はがきによる献血依頼を行った。 3. 若年者を対象としたキャンペーンを実施した。 4. 在学中に複数回協力した生徒に対し感謝増を贈呈。
山形	1. 若年層献血キャンペーン	1. 平日限定でキャンペーンを実施した。
栃木	1. 高校献血実施（体験） 2. はがきによる献血依頼 3. 大学・短大・専門学校献血実施	1. 献血の体験のため、高校での献血を実施した。 2. はがきによる献血依頼を行った。 3. 大学・短大・専門学校での献血を行った。
群馬	1. Jリーグ（J2）ザスパ草津の献血推進ポスター作製とイベント実施 2. 群馬県学生献血推進連合の献血キャンペーン	1. イベント2回を実施。 2. 学生主体の献血キャンペーンを実施した。
埼玉	1. 彩の国献血フォーラム 2. 出前講座 3. 親子ふれあい献血キャンペーン 4. 卒業献血キャンペーン 5. バレンタイン及びホワイトデー献血キャンペーン	1. 献血思想の啓発が測られた。また、例年継続的に参加される方が増えた。 2. 県内の小・中・高・専門学校へ出前で授業を行い、生徒・児童が血液、献血の話聞くことにより他人への思いやる心“献血思想”の普及啓発が測られた。 3. 採血車を2台配車。献血クイズ等お子さん対象のイベント。親と子で本キャンペーンに参加し、両親が献血している姿をお子さんが見ることで、幼少より献血を身近に感じ将来の献血につながる。 4. 記念品の費用は埼玉県薬務課、県内各校長宛文書の発送は教育局、4万3千枚のチラシを血液Cが作成し発送。 5. 県内の医療機関で輸血を必要としている患者さんへ、応援メッセージを献血者よりいただき、メッセージ集を作製。患者さんやご家族の方、血液を使う医療従事者、これから医療に携わる学生、一般の方がご覧いただくことで献血思想の輪が広がる。
東京	1. ハガキによる複数回献血依頼 2. ラクロス献血協力者に対する複数回依頼 3. 施設見学の実施 4. 大学、短大献血の増回・増班	1. はがきにより献血依頼を行った。 2. ラクロス協会の献血協力者に対し、複数回献血協力を依頼した。 3. 若年者を対象として、施設見学を実施した。 4. 施設見学等で関係者の献血への理解と協力を各日に得られた。大学献血の増会につながった。

センター名	対策	内容
神奈川	1. 大学献血の推進	1. ライオンズクラブ国際協会330-B地区献血推進合同会議において大学献血での協力を依頼した。各大学の授業形態を再確認する事により特定大学では、増班が可能となり、思想普及が出来た。また、学生献血推進を促すため学生に好評あるカップめんを配布する事で安定確保につながった。
新潟	1. 卒業献血を中心とした高等学校での献血実施 2. 学生ボランティアの協力による献血PR	1. 高等学校での献血実施。 2. 学生ボランティアによるPR。
富山	1. はがきによる献血依頼 2. セミナー開催 3. 血液センター見学会 4. 学生献血ボランティアと連携したイベントの実施（サマー献血、クリスマス献血）	1. はがきによる献血依頼を行った。 2. 看護学校にて血小板成分献血推進セミナー開催。 3. 若年者を対象に血液センターの見学を実施。 4. サマー献血、クリスマス献血の実施。
石川	1. 中学生対象の献血ポスターを募集 2. 高等学校における献血指導者研修会の開催 3. 大学の学園祭時に普及啓発を実施	1. 中学生対象に献血ポスターコンクールを実施し、優秀作品について知事表彰を行い、市内のデパート及び献血ルームで展示を行った。 2. 高等学校の教職員を対象とした献血指導者研修会を実施した。 3. 3大学の学園祭の献血実施に併せて、チラシ・ティッシュを配布し普及啓発を行った。
福井	1. 献血推進キャンペーン 2. ハガキによる献血依頼・要請	1. 若年層を対象にキャンペーンを実施。 2. 地元アーティストのライブコンサート開催で若者の来場者が多く、複数回献血、若年層献血推進に貢献した。
山梨	1. 高校献血の全校実施 2. 短大・大学献血の実施 3. セミナー開催	1. 県内全校実施。 2. 県内全短大・大学実施。 3. 県内の高校生・短大・大学生対象の研修会を実施。
長野	1. 体験ルームの実施 2. 献血キャンペーン	1. 若年層への啓発を行うため実施した。 2. 血液の不足する時期にキャンペーンを実施した。
岐阜	1. 高等学校推進 2. 大学・短大・専門学校推進	1. 県作成の啓発用リーフレットを持参し、県下高等学校を訪問。高等学校学内献血ができない学校は、献血ルームでの献血経験をお願いした。 2. 大学、短大、専門学校に対し献血の推進を図った。
愛知	1. 学生献血連盟によるキャンペーン 2. 中部学生リーダー研修会 3. 学内献血実施	1. 学生主体で、春、夏学生キャンペーンを実施した。 2. 学生の育成のため研修会を実施した。 3. 大学、短大、専門学校を対象に学内献血を実施した。
三重	1. 文化祭での啓発パネル展示 2. 若年層献血キャンペーン 3. セミナー開催	1. 文化祭で献血啓発用のパネルを展示し、普及啓発を図った。 2. 400mL献血を年3回実施。 3. 勉強会実施（血液センターにて）
滋賀	1. はがきによる献血依頼 2. セミナー開催 3. 若年者献血キャンペーン（バレンタイン献血） 4. 大学生を母体へ送迎	1. はがき、封書により献血の依頼を行った。 2. 若年層を対象にセミナーを開催した。 3. バレンタインに、若年層を対象にキャンペーンを実施した。 4. 2大学で送迎による献血依頼。
京都	1. 若年層対象のはがきによる献血依頼（おくりもの献血キャンペーン） 2. 学生献血推進協議会によるキャンペーン	1. 20～35歳の若年層に依頼ハガキを郵送した。 2. 街頭献血・献血ルーム前での呼びかけ活動を実施。
大阪	1. はがきによる献血依頼 2. 献血おもしろゼミナール開催 3. 献血イベント（学園祭を含む） 4. 学生400mL献血キャンペーン 5. 初めての400mL・成分献血キャンペーン	1. はがきによる献血の依頼を行った。 2. 若年層を対象に施設見学等を実施した。 3. 学園祭でイベントを実施した。 4. 学生を対象にキャンペーンを実施し、カップヌードルミニ3Pセットを記念品として配布した。 5. 初めての400mL・成分献血に対し、教育委員会よりチラシ配布。また、記念品としてキティバンダナを配布。
兵庫	1. ホット&フレンズキャンペーン	1. 大学学内献血で、記念品にカップ麺を提供した。

センター名	対策	内容
奈良	1. 若年者献血キャンペーン	1. 学生献血推進協議会によるキャンペーンを実施した。
和歌山	1. 学生実行委員会主催キャンペーン	1. 街頭献血においてキャンペーンを実施し。
鳥取	1. 研修、セミナーの開催 2. はがきによる献血依頼	1. 県職員新任採用者へ献血の必要性を理解していただく良い研修となった。 2. 19歳20歳を対象に献血の依頼を実施。
島根	1. はがきによる献血依頼 2. 学内献血の実施	1. はがきによる献血の依頼を行った。 2. 大学等で学内献血を実施。
広島	1. 大学献血推進協議会セミナー 2. 学生献血推進強化	1. 大学生のボランティアのセミナーを開催した。 2. 学生に対する推進を強化した。
山口	1. セミナーの開催 2. DMを活用しダイレクトに依頼する 3. 大学献血の発展と拡張 4. 広報媒体を利用した啓発・啓蒙	1. 若年層を対象としたセミナーを実施した。 2. ダイレクトメールにより献血の依頼を行った 3. 学生の献血に対する意識向上及び各学校での活動の円滑化を図った。 4. 広報媒体を利用し、啓発を図った。
徳島	1. 若年層献血キャンペーン（バースデー献血）	1. 若年層を対象にバースデー献血を実施した。
香川	1. 高校生街頭キャンペーン 2. はがき・電話による献血依頼	1. 香川県と合同実施（費用香川県負担）。高校生が参加して、献血ボランティアを体験する。 2. 事業所での前回献血者へ、依頼はがきにより献血依頼を行った。
愛媛	1. 専門学校・大学校内献血実施の増加 2. 若年者献血キャンペーン	1. 専門学校、大学を対象に学内献血を実施した。 2. 学生赤十字奉仕団による街頭献血を実施した。
福岡	1. ハガキによる献血依頼 2. 若年献血者確保キャンペーン 3. 学生献血推進協議会加盟促進 4. ルーム近隣の専門学校への推進	1. はがきによる献血の依頼を行った。 2. 若年者の確保対策として、友達紹介キャンペーンを実施した。 3. 学生献血推進協議会への加盟促進を行った。 4. 献血ルーム近隣の専門学校に献血の推進を行った。
長崎	1. 献血者確保キャンペーンの実施 2. 学生ボランティア研修会の実施 3. 血液センター見学会の実施	1. 献血者確保のためのキャンペーンを実施した。 2. 学生ボランティアの研修会を実施した。 3. 若年者を対象に血液センターの見学を実施し、見学後には献血をお願いした。
熊本	1. 献血推進用パンフレット配布 2. 学内献血キャンペーン 3. 学内献血時の学生登録 4. 県内高校卒業生へのちらし配布	1. 成人式において、献血推進用のパンフレットを配布。 2. 大学等を対象に、学内献血を実施した。 3. 緊急時に献血のお願いをするため、学内献血時に登録をお願いした。 4. 高校を卒業する生徒を対象に推進用のチラシを配布。
大分	1. ハガキによる献血依頼 2. 高校献血への増車 3. ニュードナーキャンペーン 4. 学域（大学・短大・専門学校）献血時の特別処遇品の進呈	1. はがきによる献血依頼を行った。 2. 高校へ移動献血車を増車した。 3. 新規の献血者募集のためのキャンペーンを実施した。 4. 学校での献血時の記念品を通常とは別のものに変更。
宮崎	1. はがきによる献血依頼 2. サマー献血キャンペーン 3. 学内献血の推進	1. はがきによる献血依頼を行った。 2. 若者を対象としたキャンペーンを実施した。 3. 高校・大学・専門学校で学内献血を実施した。
鹿児島	1. 九州ブロック学生献血推進サミット（H19年本県が開催県）の開催 2. 学生献血推進協の活動費 3. 学校訪問	1. 2. 学生献血推進サミットが本県で開催。献血の普及啓発に努める。 3. 高校を訪問し、400mL献血を主体にした献血を実施した。



## 若年層献血確保対策の事例

### 【事例 1】

実施センター名 : 北海道赤十字血液センター

実施名称 : 献血広報用ポスターデザインの募集

実施日時(期間) : 平成 18 年 6 月下旬～11 月末日 約 5 ヶ月間

協力団体 : 市内デザイン系専門学校 (3 校)  
札幌市献血推進協議会

実施目的 : 献血広報用ポスターデザイン応募を通じて、献血に関する知識や重要性を知っていただき、若者の感覚で表現された作品を使ってポスター等広報資材として活用することにより、若年層に対する献血啓発を行うとともに広く道民への献血普及に繋げることを目的とする。

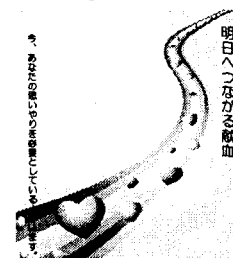
実施内容 : (1) 作品募集 : 平成 18 年 6 月下旬～9 月下旬  
(2) 選出方法 : 第 1 回選考 平成 18 年 10 月 30 日  
(有識者による最終候補作品 6 点を選考)  
第 2 回選考 平成 18 年 11 月 7 日～11 月 14 日  
(インターネット・携帯電話による一般投票)  
(3) 表彰 : 平成 18 年 1 月 29 日「献血フォーラム」で表彰  
(4) 活用方法 : ①平成 19 年度献血実施告知用ポスターに採用  
②平成 19 年度献血記念品用袋のデザインに採用

実施評価 : 本取組は昭和 62 年より毎年継続して実施している。平成 13 年からはホームページを通じてネット投票を実施し、より多くの方々が選出に参加できるようにすることで本取組の周知拡大を図っている。学生に献血のデザインを募集することにより献血啓発にもつながりインターネット投票により広く道民に献血啓蒙が行えた。今後ポスター展などを実施し、より一層の推進を図る。

実施結果 : 応募作品数 60 点の中から「札幌市献血推進協議会長賞」と「北海道赤十字血液センター所長賞」を選出した。



[札幌市献血推進協議会長賞]



[北海道赤十字血液センター所長賞]

## 【事例2】

実施センター名：群馬県赤十字血液センター

実施名称：ザスパ草津献血応援スペシャルマッチ ～献血力～

実施日時(期間)：平成19年9月23日(日) 11:00～19:00

実施場所：県立敷島公園陸上競技場及び周辺

協力団体：ザスパ草津

実施目的：群馬県内初のプロサッカーチームであり、群馬県民から熱い期待と応援を受け群馬のシンボリック的存在となった「ザスパ草津」の選手に献血広報媒体(献血推進ポスター出演)になっていただくことにより、県民の献血意識の向上を図る。

実施内容：ザスパ草津ホーム戦ベガルタ仙台戦を献血応援スペシャルマッチとしていただき、献血実施及びPRを行った。(詳細は別添)献血推進ポスターに出演していただいた。

実施評価：会場内には多くの方が来場し、効果的なPRができた。

実施結果：受付者数54名、採血者数37名(400ml:25名、200ml:12名)献血の受付時間は当日の試合時間(16:00キックオフ)を考慮して12:00～16:00とし、15:30過ぎの受付者に対してはトラブルの無いよう、受付時に献血終了が試合開始に間に合わない可能性がある旨を伝えた。)

写真

